

〈神田神保町からグローバルな課題に取り組む〉



＜活動背景＞

・グローバルな課題を自分ごととしてひきつけて活動するにはどうしたらよいのか、という模索から始まった。プロジェクトの題名にある、mottainaiとは、環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ氏の提案で、世界共通語にしようという取り組みに繋がっている。ごみ削減、再利用、再資源という活動と、尊敬の念を込めている言葉として、注目されている。

＜目的＞

- ・「食品ロス削減」というグローバルな課題に、自分たちができる解決に向けた活動を行う。
- ・地域住民・事業者・行政と持続的な交流を行い、共創する社会の実現の一端を担えるよう、本学学生の能動的学修・行動を後押しする。

＜プロジェクトと連関するSDGs＞

ターゲット12.3「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料廃棄を半減する」

＜2つの取り組み＞

フードドライブ活動

共立女子大学国際学部
田中(坂部)ゼミ フードドライブ班
貝瀬さくら、金澤愛佳、佐藤アイミ、野村美咲希

私たちの目標

- ①「身近に起きている食品ロスを減らす」
- ②「共立生に食品ロス削減意識をもってもらう」



千代田区第44回文化芸術の秋フェスティバルにアート作品を展示

学生による
活動紹介の記事
は
こちら

学生による記事
「アート作品の作成」



三里浜オリーブと地域創生プロジェクト



板橋かのん、野末純名、
長谷川優菜、高橋清香、
梶本さくら、須糸莉亜

アート作品「僕の命を捨てないで」の制作と展示



展示先
1. 2024年10月24日～31日
千代田区食品ロス削減絵画・標語展

2. 2024年11月
千代田区第44回文化芸術の秋フェスティバル

千代田区社会福祉協議会・清掃事務所との話し合い



千代田区におけるフードドライブの実態を知り、受付可能な食品の確認などを行った。
フードドライブ後の配送先を決定。



学生による記事
「フードドライブ」

目的

- ・三里浜オリーブの魅力発信と地域創生

オリーブ関連商品の販売・宣伝のお手伝いを通じて、三里浜オリーブの魅力を発信し、地域活性化に繋げる方法を考える。

- ・観光農園としての発展に向けた施策検討

三里浜オリーブカルメリーナが観光農園として発展するために、特に県外からの観光客を増やすための活動を検討。

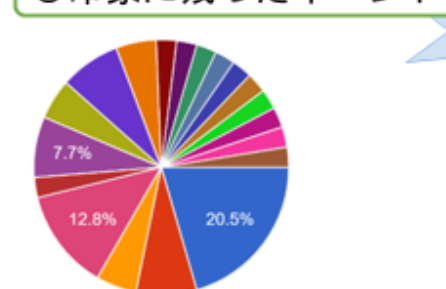
- ・消費者の意見収集と商品改善

「三里浜砂丘地収穫祭&オリーブイベント」でオリーブオイル、オリーブ茶、茶飴、らっきょうドレッシングなどの試飲・試食を実施し、アンケートを通じて感想や意見を収集する。

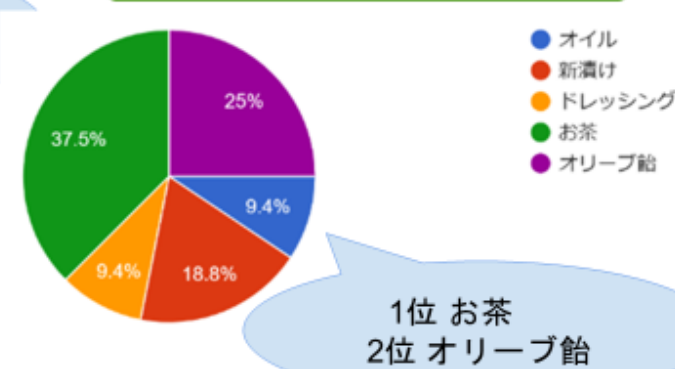


～収穫祭当日のアンケート結果～

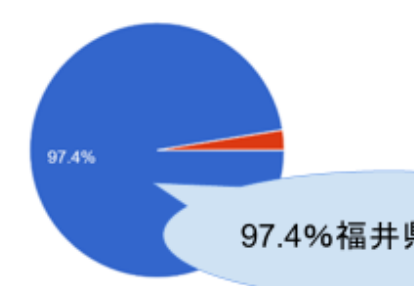
〇印象に残ったイベント



〇最も美味しかった製品は？



〇どこからいらしたか



※検討できる改善点

・お茶の苦味

※検討できる改善点

・トイレの案内がない

・飲み物の販売がない

・各イベントの場所が分かりにくい



考察～課題発見～

視察から、

- ・オリーブだけでなく観光面からも発信可能
- ・オリーブは多方面でリサイクル可能 → 食品ロス削減
- ・オリーブの資源活用や環境貢献の可能性 → SDGs

アンケート結果から、

- ・福井県内の来場者数が多い → 観光客増加のためにさらなる魅力発信が必要
- ・収穫体験人気 → 収穫最盛期にイベントの開催増加、収穫量大会
- ・ドレッシングの人気の少ない → 学食でドレッシング活用
- ・飲み物の販売がない → オリーブ茶を小容量で配布
- ・各イベントの場所が分かりにくい → マップの配布、コーンの設置、ポップの文字を大きくする



＜成果＞

共立におけるフードドライブ活動の企画・実施を通じ、千代田区内のフードパントリーと連携した。三里浜オリーブカルメリーナにおける観光農園への発展に向けた課題を発見をし、関係者と共有し、課題解決への実践活動案を検討した。

＜謝辞＞

千代田区社会福祉協議会、千代田区清掃事務所、一橋高校、薦田梓氏、佐々木徳三郎氏、三里浜オリーブ合同会社、福井市役所農政企画課、福井市東京事務所、共立女子学園関係各所の皆様より、温かなご協力・ご支援をいただきました。心より御礼申し上げます。